

船舶事故調査報告書

平成25年11月28日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 庄 司 邦 昭

委員 根 本 美 奈

事故種類	施設損傷（汚濁防止膜）
発生日時	平成25年7月29日（月） 00時40分ごろ
発生場所	福井県敦賀市敦賀港第2区 ^{まりやま} 鞠山防波堤築造工事区域内 敦賀市所在の敦賀港 ^{かねがさき} 金ヶ崎防波堤灯台から真方位354° 1,820m 付近 （概位 北緯35° 40.8′ 東経136° 03.4′）
事故調査の経過	平成25年8月5日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	遊漁船 ^{ごうかい} 剛海丸、5トン未満 251-12438福井、個人所有 9.51m (Lr) × 2.60m × 0.78m、FRP ディーゼル機関、220kW、昭和61年9月
乗組員等に関する情報	船長 男性 75歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和50年11月14日 免許証交付日 平成20年4月18日 （平成26年1月4日まで有効） 釣り客A 男性
死傷者等	軽傷 1人（釣り客A）
損傷	本船 なし 汚濁防止膜 フロートカバーに破損
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、釣り客Aほか釣り客2人を乗せ、福井県南越前町 ^{えちぜん} 河野 ^{こうの} 南西方沖での釣りを終え、船長が、平成25年7月29日00時10分ごろ、レーダー及びGPSプロッターを起動させ、暑かったので、外気に当たるために操舵室の天井部分を開け、操縦席の上に立って胸から上を出し、足で操舵輪を操作して航行を開始した。 船長は、敦賀市水島の東方沖を通過した後、右に変針して航行方向となる敦賀市内の灯火を目標とし、約17ノットの対地速力で南進中、衝撃を受け、本船が停止した。 船長は、操舵室を出て釣り客のけがの有無を確かめた後、操舵室に

	<p>戻り、時刻が00時40分ごろであったこと、及びGPSプロッターの画面を見て鞍山防波堤の築造工事が行われている航泊禁止区域内の汚濁防止膜に進入したことを知り、機関を始動して後進及び前進に操作したものの、本船が動かなかったため、携帯電話で海上保安部へ通報した。</p> <p>釣り客Aは、船尾甲板でクーラーボックスの上に座っていたときに衝撃を受け、前方へ倒れ、トイレの壁で額を打った。</p> <p>釣り客3人は、巡視船の搭載艇に移乗して敦賀港へ運ばれ、釣り客Aが、救急車で敦賀市内の病院に搬送されて前額部打撲傷等と診断された。</p> <p>本船は、汚濁防止膜の海面下に取り付けられたカーテン（ポリエステル製の織布）の上部にプロペラ翼が引っ掛かって動けなくなり、搭載艇の海上保安官が同カーテンを切断して03時19分ごろに引き出された後、自力航行して係留場所に帰った。</p> <p>（付図1 事故発生場所図 参照）</p>
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 南南東、風力 2、視界 良好、気温 約25℃</p> <p>海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の初期</p>
その他の事項	<p>本船は、係留場所を出発した際の喫水が、船首約0.4m、船尾約1.1mであった。</p> <p>船長は、南越前町河野南西方沖から敦賀市立石岬西方沖にかけ、通年、遊漁を行い、ふだんから本事故発生場所付近を航行しており、鞍山防波堤築造工事が行われ、航泊禁止区域の四隅に灯浮標が設置されていることを知っていた。</p> <p>航泊禁止区域を示す灯浮標は、灯高が約1.5m、灯色が黄色、灯質が4秒1閃及び光達距離が約4.5kmであった。</p> <p>船長は、ふだん、操縦席に腰を掛け、目視に加えてレーダー及びGPSプロッターを見て航行していた。</p>
分析	<p>乗組員等の関与 あり</p> <p>船体・機関等の関与 なし</p> <p>気象・海象の関与 なし</p> <p>判明した事項の解析</p> <p>本船は、敦賀港第2区を係留場所へ向けて南進中、船長が、敦賀市内の灯火に注意を向け、見張りを適切に行っていなかったことから、航泊禁止区域内の汚濁防止膜に進入し、フロートのカバーを破損したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、敦賀港第2区を係留場所へ向けて南進中、船長が、敦賀市内の灯火に注意を向け、見張りを適切に行っていなかったため、航泊禁止区域内の汚濁防止膜に進入したことにより発生したものと考えられる。</p>

参考

今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。

- ・夜間に航行する際は、レーダーやGPSプロッターを活用し、航泊禁止区域の灯浮標の灯光を早期に発見できるように、見張りを適切に行うこと。

付図1 事故発生場所図

